



# 第3期滋賀県スポーツ推進計画（骨子案）

教育・文化スポーツ常任委員会資料8  
令和4年（2022年）8月9日  
文化スポーツ部スポーツ課

- 計画の位置付け  
滋賀県スポーツ推進条例第8条に基づき、スポーツの推進に関する総合的かつ計画的な推進を図るために策定するもの。
- 計画期間  
令和5年度から令和9年度までの5年間

## 計画策定の背景

### 社会情勢の変化

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大
- 県民のスポーツ実施率の伸び悩み
- 運動部活動改革の議論
- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の経験
- 国スポ・障スポ、ワールドマスターズゲームズの開催

### 滋賀県基本構想の目指す2030年の姿

- 誰もが生涯を通じ、様々なつながりの中で自分らしくからだも心も豊かな生活を送っている
  - ・スポーツの習慣などによる健康的な日常生活
  - ・誰もが居場所や生きがいをもち、スポーツ等に親しみながら心豊かに生活
- 滋賀ならではの観光資源等の魅力が発信されていることで、滋賀を訪れる人が増加し、地域が活性化している
- 多様な人々の違いを認め合い、誰もがその人らしく活躍できる共生社会が実現している

## 第2期計画の取組状況・課題等

### 基本方針Ⅰ スポーツの力で「豊かで健やかな生活」を創る！

- ◆政策1 生涯にわたるすべての県民のスポーツ活動の充実
- ◆政策2 スポーツの持つ多様な価値の共有

#### 取組状況

- 県民体育大会や健康推進アプリ「BIWA-TEKU」を活用したウォーキングイベント、オンラインを活用した運動・スポーツ教室などを開催し、**県民のスポーツの機会を創出**
- 小・中学校での体育・保健体育の質的向上に向けた授業公開・研究協議や、休日部活動の地域移行に係る実践研究の実施など、**子どもの運動・スポーツ活動の充実**につながる取組
- 障害者スポーツに関するコーディネーターの派遣など、**障害者のスポーツ活動の充実**
- スポーツイベント等での活動機会の提供や研修会の実施等、**スポーツボランティア活動の充実**
- HP「しがスポーツナビ！」による多様な情報発信

主な指標	策定時	H30	R1	R2	R3	目標 (R4)
成人（男・女）の週1回以上のスポーツ実施率	男 35.6% 女 36.8% (H28)	39.7% 40.0%	45.6% 42.4%	50.1% 47.4%	55.2% 48.6%	65%以上 65%以上
子ども（男・女）の1週間の運動・スポーツ実施時間（土日を含み、平日授業を除く）【小学5年生】	男590.7分 女347.2分 (H28)	586.6分 341.7分	558.8分 330.2分	- -	527.5分 313.4分	625分 382分
障害者の週1回以上のスポーツ実施率	38.1% (H29)	-	-	28.9%	-	65%以上
スポーツボランティア登録者数（本県ボランティア登録システム利用）	334人 (H28)	1,789人	3,379人	3,629人	3,823人	2,000人以上

- ※「主な課題」の凡例  
 ・：第2期計画期間中に生じた状況  
 ✓：次期計画に求められる取組

計画策定に向けた3つの視点

#### 主な課題

- ・コロナ感染拡大の影響による**スポーツ活動の停滞**
- ・コロナの経験を通じた**健康意識の高まり、オンラインを活用した新たな取組の進展**
- ・**スポーツ実施率の伸び悩み**（特に若者や働き盛りの世代、女性、障害者）
- ・**子どもの運動・スポーツ実施時間の減少、体力の低下**
- ・少子化等の影響による一部の**運動部活動の維持困難**

人

### 基本方針Ⅱ スポーツの力で「元気な地域」を創る！

- ◆政策3 スポーツ施設・環境の充実
- ◆政策4 スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化

#### 取組状況

- **総合型地域スポーツクラブ**に対する研修会の実施など、**クラブの育成**
- 国スポ・障スポの主会場や滋賀アリーナなど、**県立スポーツ施設の整備**
- 「びわイチ」の環境整備など、**豊かな自然環境を活用したスポーツ**

主な指標	策定時	H30	R1	R2	R3	目標 (R4)
総合型クラブで指導する有資格指導者数	267人 (H28)	229人	280人	283人	(未集計)	370人以上
県内の公共スポーツ施設の利用者数	6,617,409人 (H26)	583万人	570万人	348万人	(未集計)	730万人以上
スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数（暦年）	1,002万人 (H28)	1,091万人	1,105万人	795万人	(未集計)	1,200万人以上
滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数	60,844人 (H29)	95,753人	73,262人	35,211人	42,174人	100,000人以上

#### 主な課題

- ✓ **総合型クラブなど身近なスポーツをする場の充実**
- ✓ **スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化**
- ・コロナ感染拡大の影響による**スポーツ等を目的とする観光入込客数の減少**、一方で**地域資源を活かした屋外スポーツへのニーズの高まり**

地域

### 基本方針Ⅲ スポーツの力で「感動の滋賀」を創る！

- ◆政策5 国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力向上と競技者の拡大
- ◆政策6 地域の特性を生かした大会レガシーの創出

#### 取組状況

- 次世代アスリート発掘育成事業「滋賀レイキッズ」の実施や、トップアスリートの県内就職を支援する職業紹介所「SHIGAアスリートナビ」の開設など、**選手の育成・強化**等を推進
- 東京オリパラの事前合宿の受入れなど、**ホストタウン相手国との交流**を推進
- 競技会場となる市町への支援や多様な情報発信による機運醸成など、**国スポ・障スポの開催準備**を推進

主な指標	策定時	H30	R1	R2	R3	目標 (R4)
国体総合順位	39位 (H29)	31位	30位	-	-	8位以内
県障害者スポーツ大会の参加者数	773人 (H29)	757人	708人	150人	562人	1,000人以上
オリンピック・パラリンピックのホストタウンを通じて海外との交流を始めた市町数	3市 (H28)	5市	5市	5市	5市	6市町以上

#### 主な課題

- ✓ **国スポ・障スポに向けた競技力向上と競技者の拡大、大会後の競技水準の定着**
- ・東京オリパラによる**感動の共有、スポーツに対する関心の高まり**と**障害者スポーツへの理解の深まり**
- ✓ **大規模大会の開催による成果の未来への継承**

大規模大会

# 第3期滋賀県スポーツ推進計画（骨子案）



## 目指す姿

**スポーツで滋賀を元気に！**  
**感動を未来へ！**

すべての県民が身近にスポーツを楽しみ、感動を共有し、互いに連携・協働することを通じて、地域に誇りや愛着を持ち、健やかで豊かな生活を営むことができる共生社会の実現



## 3つの基本方針と7つの施策／目標 等

基本方針	施策／目標	展開方策（たたき台）
I 「健やかで豊かな生活」をつくる 【人】	1 生涯にわたるスポーツ活動の充実 年齢や性別、障害の有無を問わず、全ての県民が「いつでも、どこでも、いつまでも」自分らしくスポーツを楽しめるよう、機会の創出・拡充や環境の整備を図る。	・女性や働き盛りの世代に対する参加促進 ・健康寿命延伸に向けた取組の推進 ・トップアスリートとの交流機会の創出 ・スポーツボランティア活動の促進 ・地域スポーツクラブの育成 ・公共スポーツ施設等の活用・充実 等
	2 子どもの運動・スポーツ活動の充実 全ての子どもが大人になっても楽しめるスポーツに出会い、体を動かす楽しさを実感し、継続して取り組める環境をつくる。	・幼児期からの運動(遊び)・スポーツ活動の機会の拡大 ・小中学校における体育・保健体育の授業改善 ・スポーツ少年団の育成 ・中高生の運動機会の充実 等
	3 障害者のスポーツ活動の充実 障害のある人が気軽にスポーツを楽しみ、継続して取り組める環境をつくる。	・障害のある人の参加機会の拡大と定着 ・障害者スポーツの理解促進 等
II 「活力のある地域」をつくる 【地域】	4 スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化 県民や大学、企業、地域、スポーツ団体等の多様な個人・団体が、スポーツを通じて主体的に連携・協働することにより地域の活性化を目指す。	・地域とスポーツ団体との連携・協働の推進 ・大学・企業等とスポーツ団体との連携・協働の推進 等
	5 滋賀の地域資源を生かしたスポーツの推進 琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境や観光資源を生かしたスポーツの振興を通じて、交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげる。	・スポーツツーリズムの推進 ・文化財等の観光資源を活用したスポーツの推進 ・スポーツイベントを生かした地域の活性化 等
III 感動を未来へつなぐ 【大規模大会】	6 国スポ・障スポ大会等に向けた競技力向上と競技水準の定着 「選手の育成・強化」「指導體制の充実」「強化拠点の構築・環境整備」の取組の推進による競技力の向上や、大会後の競技水準の定着を図る。	・選手の育成・強化 ・指導體制の充実 ・強化拠点の構築・環境の整備 ・大会後の競技水準の定着 等
	7 地域の特性を生かした大会レガシーの創出と未来への継承 国スポ・障スポ大会やワールドマスターズゲームズ関西等の開催を契機として、地域の特性を生かした滋賀らしいレガシーを創出し、未来へ継承する。	・大会運営等のノウハウの継承 ・スポーツボランティア活動の継承 ・大規模大会を生かした障害者スポーツの理解促進 等

・誰もが自分に合ったスポーツを気軽に楽しんでいる  
・子どもが体を動かす楽しさを実感し、継続して取り組んでいる  
・障害者がスポーツを気軽に楽しんでいる

・多様なスポーツ関係者が連携・協働し、地域が活性化している  
・地域の特性を生かしたスポーツにより地域が活性化している

・選手の育成や指導體制の充実等により、競技力が向上し競技者が増えている  
・国スポ・障スポ後の競技水準が定着している  
・大会の成果を生かして、地域の特性を生かした滋賀らしいレガシーが創出・継承されている

施策の総合的かつ計画的な推進のために必要な事項  
県民自らの参加の推進 ・ 多様な主体の連携・協働による推進 ・ データ分析に基づく計画の進捗状況の検証および反映 等